北海道バプテスト連合ニュース
全道にキリストの光を！

２０１６年１月発行　No.１０６
発行者　西島啓喜　　編集者　西島啓喜
発行所　〒080-0809　帯広市東9条南8丁目1-3
帯広バプテスト・キリスト教会内
http://hokkaidobap.jimdo.com　pw:jbc1947

巻頭言

「加害者の側に立つ『和解のつとめ』」

北海道バプテスト連合　副会長　田森　茂基（旭川教会）

「ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。　（マルコ１：14～15／新共同訳）」

今年（２０１５年）の９月に、私は休暇をいただいて広島へ行ってきました。今から７０年前、当時５歳だった私の父は、広島市で被爆しました。その事は、幼い頃より聞いて知っていましたが、今回はじめて、被爆当時に父が住んでいた家、即ち父の被爆地に家族と共に訪れました。父の実家は、地図で見ると爆心地から直線距離で約３kmの位置にあり、家の中にいなかったら助からなかったとの言葉も実感できました。父の被爆が、わたしの身体にどれほどの影響を及ぼしているのかは、分かりません。珍しい病を患ったこともありますが、被爆との因果関係を実証する事は難しいようで、それが直接の原因とは診断されずにきましたが、その事について、私はこれまで心のどこかで「被害者意識」を持ってきたように思います。

その日の夜（２０１５年９月１９日）、参議院にて「安保法案」の採決が行われ、可決しました。７０年前に、日本の敗戦を決定的に知らしめたあの広島で、再び戦争の出来る国へと変える政府の決定を、わたしは聞きました。この政府の決定についても、わたしは「被害者意識」を持っていました。そんな私にとって転機となったのは、１１月に行われた、日本バプテスト連盟の第６１回定期総会でした。

２０１１年より、「日本バプテスト連盟」では１０年間の中長期大綱と併せて「和解のつとめに仕える」という言葉を掲げており、今回の第６１回定期総会でも、「希望の源なる神に従う」という標語と共に、「和解のつとめに仕える」が打ち出されました。その総会に代議員として出席している中で、「和解」＝「赦し」という概念に、私達は知らず知らずの内に捉われているのではないかとの疑問を感じたのです。果たして、本当に私達は「被害者」であり、加害者を「赦す」立場にいるのでしょうか。その視点に立って、本当に「和解のつとめに仕える」事が出来るのでしょうか。

冒頭に掲げた「みことば」にあるように、イエスは福音を信じる者に「悔い改め」を促されました。この「悔い改め」が生れるのは、「被害者意識」からではなく、その反対の「加害者意識」からです。「被害者意識」を持って他者に変わる事を求めるのではなく、「加害者」の側に立ってわたしが変わる事を受け容れて行く事が「悔い改め」ではないでしょうか。そして、このイエスの言葉を覚えつつ、上記の疑問と向き合う時、わたしは「加害者」の側に立つ事が求められているのは「わたしと神」との関係においてだけではなく、あらゆる事柄においてではないかと気付かされたのです。なぜなら、人は全能なる神と違って「欠け」のある存在であり、どれだけ人の知恵を尽くしても、そこには必ず間違いが生じるからです。そのわたし達を、神は全知を持って補い、導いて下さるのではないでしょうか。己を絶対化する罠を含む「被害者意識」から解放され、己の不完全さを自覚する「加害者意識」を持ち、共に「和解のつとめに仕える」我々（北海道バプテスト連合）でありたいと願わされています。

●北海道連合女性信徒の会道南ブロック女性信徒研修会に参加して

苫小牧教会　西村朋子

道南ブロック女性信徒研修会が去る 2015 年８月３－４日苫小牧で行われました。

函館教会、函館美原教会、室蘭教会、そして今年度の当番教会である苫小牧教会の４教会から総勢２２名の参加があり、主に導かれ沢山の恵みの中での修養会でした。

初日は開会礼拝、オリエンテーションの後、宿泊予定の「アルテン」へと移動。「アルテン」は温泉を備えた緑の中にある市営のキャンプ場で、苫小牧西部地区にあります。自由時間を過ごし夕食後は、北海道連合女性信徒の会会長の李姉から「世の光」を取り巻く現状をお聞きし、その後「分かち合い」の時間を持ちました。

私は「世の光」を教会へ向かう電車の中でよく読みますが、この小さな冊子は「なんと大きな役割を持っているのだろう」と改めて思います。私にとっては姉妹方の「祈り」を分かち合う時となり、内向きになりがちな日々の視点を大きく外へと広げてくれます。そして何よりもまだ神さまを知らない方々へ大きなメッセージを伝えてくれています。「世の光」がもっとたくさんの人々に読んでいただけるように祈り、自分にできることを考えていきたいと思います。

「分かち合い」の時間は聖書の「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい」の御言葉にそった李姉のお話を聞き、「そうなのよねー」と自分の信仰の弱さを思いながら頷くことしきりでした。相手の立場に立つことは本当に難しくてできないけれど、そうなれるよう祈ることは忘れないように。

２日目は派遣礼拝の中で詩篇１２８編から「喜びの歌と共に」と題して、函館教会の本多牧師から説教を聴きました。礼拝は４教会の小さい子どもたちも一緒になごやかな雰囲気の中で行われました。この修養会で初めてお会いした姉妹もいらっしゃいましたが、イエスさまが中心にいらっしゃると、初対面であることも忘れるほど親しみを覚えました。またお互いの教会が、姉妹方が互いの教会を覚え祈り合っていることがとてもうれしく、そして励まされました。同じ部屋で枕を並べて寝ていると何だか肉親の姉妹たちのようでもあり、修学旅行でもあると錯覚しそうでした。「主にある」ことは本当にすばらしいと実感した修養会でした。

●北海道連合壮年会の動き

苫小牧教会　原田恵雨

今年度の連合壮年会も神様の豊かな導きと、みなさまのお祈りに支えられて活動をすることができました。主を讃美し、みなさまに感謝申し上げます。

今年度の連合壮年会テーマは、昨年度と同じで「奉仕する壮年会」でした。主な活動は次の３つです。

(1) リビングホープ教会主催の「ナイト de ライト」特伝支援
(2) 小樽教会の特伝支援　講師：田中　博師
　　奉仕：札幌教会壮年会聖歌隊、海津さやか氏
(3) 連合壮年会ニュース（春号、初夏号、立秋増刊号）の発行

(1) では、昨年度に引き続き、連合青年会との連携から発展した活動です。特伝自体は 11 月 8 日でしたが、壮年会では 9 月 18 日にチラシ配りを奉仕させていただきました。あいにくの雨でしたが、なんとか約 1000 枚のチラシを配ることができました。チラシ配り後は青少年との交わりを持ちました。副会長の藤原兄は次の日の礼拝で証をさせていただきました。特伝当日は約 30 名が参加し、大変盛り上がったと聞いています。

(2) では、役員会を小樽教会で持った（6 月 6 日）ことから発展して行うことになりました。この活動も、10 月 10

日にチラシ配りを奉仕させていただきました。この日は前日まで大雨が降っていたにも関わらず、天候が守られ晴れた中で行うことができました。また、「励ましのことば」として、連合諸教会から小樽教会へメッセージを送っていただきました。

これらの活動の計画・募集・報告を（3）でいたしました。私はこれらの活動を通して、主は連合壮年会の働きを用いてくださり、北海道連合の連帯を強め、私達が他者のため特にまだ救いを知らない人々の救いの働きに導いてくださっていることを強く感じました。

来年度も同様の活動を続け、主の御業のために連合壮年会が用いられることを願います。

10月10日小樽教会にて、チラシ折をしながら地区割当

●連合音楽委員会活動報告

室蘭教会音楽集会に参加して　帯広教会　齊藤聖彦

去る１１月１５日に、室蘭教会を会場に、音楽集会が行われ、連合音楽委員会の一員として、この集会の計画から実施までに関わらせていただき、今年もよい経験をさせていただきました。

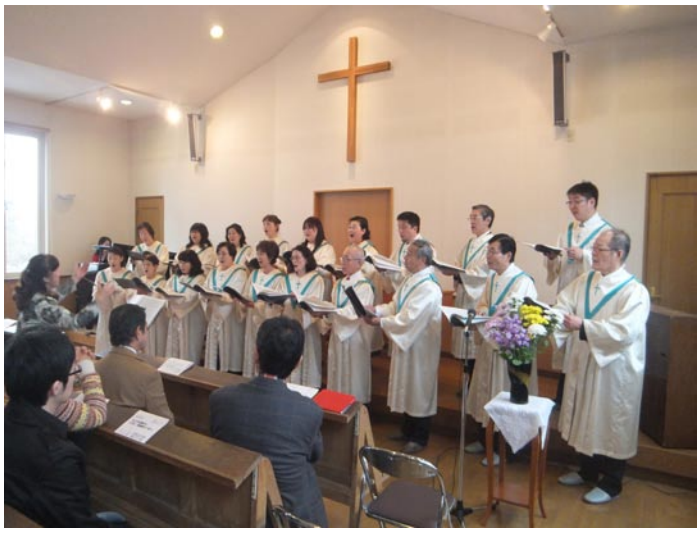
無牧師教会支援の一環として、音楽を通して、共に神さまをほめ讃えることを目標に、開催をいたしましたが、例年言えることですが、違う環境の中で、いつもと違う人たちと、同じ神さまを讃美できることは、とても素晴らしいことだと思わせられます。聖歌隊のメンバーは、札幌教会が中心となり、その協力がないと実現できない今回の企画でありましたが、連合の諸教会からも、少しでも多くの参加者を送ることで、今後、さらに連合全体の大きな行事として発展する可能性を秘めている活動であるといえるでしょう。そのことをこれから神さまに期待したいと思います。

さて、集会のほうは、午前の礼拝を讃美礼拝として、会衆讃美と聖歌隊やソロの特別讃美を多く取り入れた、会堂いっぱいに、その歌声が響き渡るとても素晴らしいものでした。また、メンバーの中から、清水寿美子さんと小田学さんが、とてもよい証しをされ、内容的にもとても調和のとれた礼拝であったと思います。

午後からは、森洋子さんのチェンバロの演奏、真部恵子さんのソプラノのソロと聖歌隊の讃美という、三本立てでコンサートを行いました。讃美を通して、教会の働きが生かされていくことを実感したコンサートでした。

室蘭教会は、工業大学の留学生が多数集会に出席し、若さ溢れる良い雰囲気の中、礼拝を守り、交わりを深められています。なかでも、インドネシアからの留学生Ａ君は、国では七五％がイスラム教徒という環境の中で、熱心にキリスト教を信仰している学生です。その真摯な姿に、とても熱いものを感じ、世界祈祷週間も近いということもあって、世界伝道の意義を肌で感じることができました。

奉仕を通して、新しい交わりや気づきを得ることができるこの連合の活動に、繰り返しになりますが、次回は多くの教会から、参加者を送っていただけることを願っています。



●連合教役者会教会支援プログラム室蘭教会奉仕報告

2015 年度連合教役者会幹事長　本多啓示（函館教会）

昨年から始まった「教役者会教会支援プログラム」。函館教会としては昨年参加出来なかったこともあり今年は是非と願う中、現在無牧である室蘭教会での奉仕の機会に恵まれました。同じ道南ブロックの教会とはいえ、講壇奉仕は初めてだったこともあり、やや緊張を覚えつつも、前日に教会役員のＳ兄が夕食をとりながら教会の近況や課題、御自身の歩みについても分かち合ってくだり、緊張がとけた状態で奉仕に臨むことが出来ました。前任の斎藤隆牧師の離室以降、近隣の室蘭工業大学で学ぶ留学生メンバーが積極的に学生を教会に誘うようになったとのことで、当日の礼拝にも４名ほどの学生が集い、教会のメンバーとともに力強い讃美をささげていました。礼拝後には、教会メンバーと求道者の方々とともに、おいしいカレーと手作りのケーキで留学生の誕生日を祝い、近況を分かち合うアットホームな交わりに参加させていただくことができました。神が備えて下さっているふさわしい牧会者が与えられるように。又、御言葉と祈りを中心とした教会の灯火が灯し続けられ、室蘭の地に豊かな祝福と魂の救いの恵みが起こされるようにと祈りが導かれました。2015 年度にプログラムに参加された教会は、9 月に「室蘭、函館、旭川、旭川東光」各教会から４名の牧師。11 月には、「リビングホープ、オープンドアチャペル、札幌、苫小牧」各教会から４名の牧師が派遣、奉仕し協力伝道の恵みを分かち合うことが出来ました。来年度も実施する予定なので是非積極的にご応募いただき、各教会同士、連合間の活性化と交わり、課題を共に担い祈りあう、絆がより豊かなものとされていくことを願っております。2015 年度教役者会教会プログラム支援への連合のみなさんによるご理解とお祈り、ご協力に心から感謝を申し上げます。

●信徒セミナーに参加して◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

帯広教会　西島啓喜

2015 年 11 月２-３日、北海道バプテスト研修センターの第６回信徒セミナーが札幌教会を会場に開かれました。参加者は約５０名でした。今回のテーマは「礼拝プログラムの考察」ということです。

研修の方法は、参加者を５グループに分け、１回目は各教会の礼拝プログラムの紹介、２回目は「１０分間の礼拝プログラム」と「２時間の礼拝プログラム」を作成しようというものです。この狙いは、極端な例を考えて、礼拝に必要な要素を意識してプログラムを構成しようということです。

各教会のプログラムの特徴は、ほとんどの教会で子供を意識したプログラムが取り入れられていることでした。特徴のある教会は

・礼拝の途中にＣＳ（分かち合い）を入れる（東光）
・プログラム作成は礼拝委員会が行う（札幌）
・「祝祷」は神が教会を通して行う「派遣」なので信徒が説教するときも説教者が行う（美原）
・説教のあとに必ず招きを行う（美原）
・子供説教は月１回の教師会で４人の教師が 120 字の要旨を書いてきて検討しあう（美原）

などが印象に残りました。

礼拝プログラムを作る作業では、礼拝を構成する要素を巡ってそれぞれのイメージが異なるので喧々諤々、白熱した議論の中で時間をオーバーして行いました。

研修を受けての感想は、ほとんどの教会がイメージするのは、「トラディショナル」（伝統的）な礼拝ということで、もう少し現代的な礼拝スタイルの提案もあって良かったのではないか、また、礼拝についての総括的・神学的学びが事前にあれば一層深まったのではないか、という感想を持ちました。

信徒参加型のセミナーとして今後も期待したいと思います。